



しずおか愛護

No.46 (令和4年12月20日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



巻 頭 言



2022年も残すところあとわずかとなりました。コロナへの対策は依然として注意を払わなければいけない状態が続いております。

そのような中、今年1年も様々な話題がありました。

新しいところではワールドカップカタール大会での侍ブルーの躍動ではないでしょうか。つい観入ってしまい寝不足になった方も大勢いらっしゃると思います。選手たちの口々に言われていた言葉に「皆で勝ち取った勝利」が聞かれました。仲間を信じ仲間をたたえる姿には感動を覚えました。

静岡県知的障害者福祉協会
副会長 家込 久志
(ほっと)

私に小さな感動を与えてくれたのが、3年ぶりに草薙総合運動場に集合して開催された静岡オレンジマラソン大会。みな元気よく走っている姿は頼もしくもありました。出発前の早朝は雷と豪雨。空を見ながら身支度していくと次第に雨が上がり、車を走らせました。本来ならば華麗なる車線変更にて静岡まではあっという間ですが、菊川あたりからの豪雨により安全運転管理者にふさわしい運転へと変わりました。陸上競技場に到着すると次第に雨も上がり、陽も差してきて富士山の雪景色を見ながら競技が進められていきました。チームほっとは、みんな完走でき昼食をおいしそうにほおぼっていました。

大会の運営や企画に参加して下さった多くの方々に感謝申し上げます。印象としては学生さんが多く関わって下さっていたこと。エスパルスダンススクールの皆さんの参加により一般の方のかかわりを多く持たれていたこと。そして、エスパルスの大榎克己CRO（クラブ・リレーションズ・オフィサー）のシュツとした出で立ちが素敵でした。エスパルス様による観戦招待をきっかけに生まれた今回のご縁、

本当にありがとうございます。

私個人としても還暦厄年が明けて新たな年に向け、そして次なる目標に向け4年後と言わず明日からも笑顔で歩んでいきたいと思えます。皆様におかれても良い年を迎えられますことを願い、巻頭のあいさつに代えさせていただきます。(家込久志)

第59回東海地区知的障害関係施設職員等研究大会に参加して

事務局長 増田吉則

令和4年度の東海地区知的障害関係施設職員等研究大会は、10月17日(月曜日)～18日(火曜日)、愛知県豊橋市の「ロワジールホテル豊橋」を会場に開催されました。

静岡県からは、20 会員施設・事業所から 26 人が参加を申し込まれていましたが、各県ともに、コロナ禍のため、例年よりは参加者がかなり少なかったです。しかし、3年振りに対面で開催された研究大会、この4月から福祉協会に勤めている私にとっては、初めての研究大会ですが、愛知県協会の熱意が伝わり、いろいろと考えさせられた大会となりました。

静岡県は、来年度の研究大会の当番県のため、事務局長の他、2日目の分科会には、事務局の河合さん、鈴木さんも参加しました。自由に分科会を出入りできるようご配慮いただき、開催状況をつぶさに視察することができました。愛知県協会の田中事務局長様、事務局の川上様、それから、東海地区会の松下事務局長様、本当に有難うございました。

さて、2日目の分科会を中心に報告したいと思います。第1分科会「インシデントプロセス法」は、医師の小野 宏さんを招いての特別講演とモデルケース会議により、「今、この場で、何ができるか」を考えるプログラムでした。

第2分科会「ワールドカフェ」は、私たちが考える専門性とは何か?それぞれの想いや気づきを「ワールドカフェ方式で語り、聴き、感じろ!」というものでした。グループがどんどん入れ替わり、とても動きのある研修でした。講師の方は声も良く通り、体全体で参加者と向き合っている感じでした。しぐさや話法など、プロフェッショナルにしか見えなかったのですが、会員の方で施設の管理者をされているそうです。松下事務局長によれば、「自前の研修講師の養成に何年も前から取り組み、研修参加費用なども助成して育成している。」とのことでした。

第3分科会「SDG s」は、SDG s を学び、その観点で自身の福祉と障害のある方の権利擁護を考える。「私たちの世界と私がやるべきこと」でした。こちらの講師も会員の方で、専門的な研修を受けているそうです。

第4分科会「支援スタッフトークライブ」は、ゲストに社会福祉法人グローの御代田 太一氏を招き、前半がトークライブ、後半がグループワークでした。

第5分科会「ABC分析」は、強度行動障害者への支援、「なぜ? どうして?」を深めよう!明日から使える ABC 分析」がテーマです。講師の方は大学の先生のような雰囲気でしたが、こちらも会員の方でした。

現在、研修専門委員会において、来年度の研究大会の準備を進めています。愛知県をはじめ、他県の取組を評価しつつ、静岡県らしい研究大会になりますよう、会員の皆様のご理解とご協力をよろしく願います。



<第1分科会の様子>



<第2分科会講師の野呂さん、
しぐさや話法などプロ並みの腕前>



<第3分科会講師の藤田さん、
やはりプロ並みの腕前>

<第2分科会、
皆さん熱心に語り合っていました。>



<第4分科会、はじめはトークライブ>

<第3分科会、こんなカードゲームでした>



＜第5分科会の様子＞

令和4年度 第35回静岡オレンジマラソン大会を終えて

静岡オレンジマラソン専門委員会担当理事 望未園 大澤将孝

去る11月26日土曜日に静岡県草薙総合運動場陸上競技場において第35回静岡オレンジマラソン大会の開催が新型コロナウイルスの影響で大会の中止や縮小を余儀なくされ、マラソン大会を再開しようと実行委員会で準備を進め

＜第4分科会、はじめはトークライブ＞

ておこなわれました。

今年は3000m、1500m、1000mに加え、初めて100mも取り入れ、より競技に参加しやすい距離を設定しました。また、エスパルスともコラボレーションし、往年の名選手であるCROの大榎克己氏やマスコットのバルちゃん、エスパルスダンススクールの皆さんも参加して下さい、スターターや競技の応援、ダンスパフォーマンスを披露していただきました。

前日準備の段階では秋晴れでしたが、当日はオレンジマラソン大会の恒例になりつつある天候不良が見込まれていました。大会関係者、参加者皆さんの願いが叶い、日差しが見えるほどの天候となり、参加者の皆さんの一生懸命な走りに応援する皆さんも盛り上がり、ご協力いただいた皆様のおかげで全ての競技を無事に終えることができました。



虐待防止啓発講座

権利擁護専門委員会担当理事 ミルキーウェイ 原邦人

静知協では、これまで人権擁護・虐待防止専門委員会として虐待防止等の活動をしてきましたが、津久井やまゆり園の事件では多くの関係者に大きな衝撃を与え、これまで以上に人権・権利擁護に努めなければならないことを実感させられました。そこで、令和3年度より各部会から代表者4名を選出し、新たに「権利擁護専門委員会」としてスタートしました。委員会の役割として、人権侵害・虐待防止対

策への支援・啓発活動及び研修会等の実施を行っていきます。その一環として、より一層の人権・権利意識向上を図っていくために、新任の職員を対象とした「権利擁護啓発講座」を開設しました。令和4年度は、「障害者への虐待について」と題し、県立富士見学園施設長鶴田安弘氏の講義から始まり、事例報告として、あおぼのさと施設長溝口弘志氏、伊豆つくし学園施設長内田哲正氏に行っていただきました。その後、グループに分かれ虐待についての施設での取り組みや課題についての意見交換を行いました。各グループ率直な感想や意見が出され活発に行われました。今年度は44名の方に参加していただきました。ご協力ありがとうございました

広報専門委員会より

広報専門委員会担当理事 みはらしの丘 高井昌弘

広報専門委員会では定期的な会報発行に加え、ホームページを充実させ、県民や会員施設に向けた、本会の活動及び社会福祉に関する知識及び技術の広報啓発活動等を目指しています。

事業概要は“しずおか愛護の発行”“ホームページの管理・更新”で、しずおか愛護の発行においては現行の発行体制を継続させながら、本会の数か月ごとの事業実績をまとめた紙面づくりを目指し、ホームページの管理・更新は、その役割を、長期にわたる事業実績・研修報告等のアーカイブ化と考えるなど、それぞれの目的は異なるものと位置付けています。

また、今後進めていきたい取り組みの一つに、各会員施設・事業所の活動紹介等があげられ、皆様の施設紹介と共に、施設利用等に伴う家族の疑問、質問に答えられるような情報発信を目指していきたいと思っています。これら情報発信においては、情報提供者の数が多いほど充実させられるとも考えます。本会の広報啓発活動、情報発信を進めるにあたり、皆様のご協力よろしくお願ひします。

研修専門委員会について

研修専門委員会担当理事 松ぼっくり 山田宗克

令和4年度より本協会の委員会・専門委員会が組織変更され、研修委員会も研修専門委員会という形でスタートしました。加えて担当理事も従来は西部担当理事1名が職員研修所講座担当として動いていましたが、各部会より選出された委員5名+部会研修担当（保健医療、栄養、事務）3名、担当副会長、西部担当理事（委員長）を加えた10名で、研修委員会を運営していくことになりました。

研修委員会の今年度の主な検討内容は、1. 令和5年度東海地区職員研究協議会の企画についての検討、2. 職員研修所講座の企画、3. 「保健医療」「栄養」「事務」の部会研修について、の3つになります。それらの議題について、9月13日と10月25日の2回委員会が行なわれ、様々な意見交換がされました。

とくに令和5年度に静岡県が担当する東海地区職員研究協議会については、「堅苦しいものではなく発言ができる参加型のもの」「職員が仕事の楽しさや元気がもらえるものにしたい」「現場の職員の興味関心から支援につながるもの、例えばICTやDXなど情報技術」といった具合に積極的な意見が出されました。現場にあったテーマ設定と職員が参加して良かったと思える研究集会にするために、今後も話し合いを継続していきます。

次に「部会研修」についてですが、コロナ禍で開催できずにいましたが、「保健医療」「栄養」「事務」の部会を構成する職種（看護師、栄養士、事務員）の職員の方々は、それぞれの施設の中で、ひとり奮闘されている方も多いため、各施設間の横のつながりが大切であることを確認し、今年度は「部会研究集会」が、担当理事の皆さんの奮闘により「まずは集まって話をしよう」という精神でそれぞれ開催さ

れることになりました。

次に職員研修所講座についてですが、4年前に会員全施設に取り入れたい研修の内容についてのアンケートを実施して、そのアンケート内容に基づいて講座を構成してきました。今年度から各部会より参加してもらっている委員のメンバーの皆さんに、来年度以降それぞれの講座に参加してもらいながら検証を進め、講師の皆さんと相談しながら、さらに時代に合った内容にしていけたら良いと感じています。今年度実施済みの主な講座内容は下記の通りです。

講座名	講師名	備考
心理学療法講座	福永博文氏	「障害のある人の社会的自立のための行動形成」というテーマで実施。コロナ禍で9/2, 9/8, 9/9の3日間対面+ZOOM実施。参加者9名
医療・看護講座	山倉慎二氏	「知的発達障害者と医療」テーマで6/13, 7/11, 8/16の3日間ハイブリッド方式で開催。参加者33名。
カウンセリング講座	杉本好行氏	今年度は「人をどう理解し、人にどうかわるか」というテーマで11/11, 12/16の2日間実施。参加者3名
障害特性を理解する講座 (児童期)	大石明利氏	「知的障がいのある人の暮らしと支援」(児童期)というテーマで対面で10/31に実施。参加者15名
障害特性を理解する講座 (成人期)	高橋和己氏	「知的障がいのある人の暮らしと支援～制度の変遷と事例を通して支援を考える」テーマで11/18にZoomで実施。参加者29名
障害のとらえ方講座	小林不二也氏	今年度は「障がい者をどうとらえ、社会でどう支えていくかを考える」テーマで対面で実施。参加者32名
発達障害の理解講座	弓削香織氏	「発達障害の理解と支援」というテーマでZoomで実施。後半の演習では具体的な支援の仕方についてグループワークを実施。参加者29名
性に関する講座	片岡佳美氏	「学齢期こどもの心と体の成長」というテーマで9/22に対面で実施。あまり例がない講座として貴重なお話。参加者11名
権利擁護セミナー	鶴田安弘氏	権利擁護啓発講座として11/14対面で開催。講義、事例報告、グループワークという流れで実施。参加者42名